

散歩ガイドマップ

揖島駅から玉川上水駅

揖島駅から玉川上水駅まで約7.0キロ

揖島分水口と殿ヶ谷分水口

平和橋の下流側すぐ右手に揖島分水口、更に下流の左手に殿ヶ谷分水口跡が、更にその下流には堰も残されている。揖島分水口の明確な開設の年代は不明であるが、明暦3年(1657)頃とされる古い分水で揖島宿の中央を流れていた。現在でも奥多摩街道の両側に流れが残る。殿ヶ谷分水は享保5年(1720)殿ヶ谷、宮沢、中里、砂川の4新田への生活用水として引かれた。現在流れは途絶えている。

暗渠

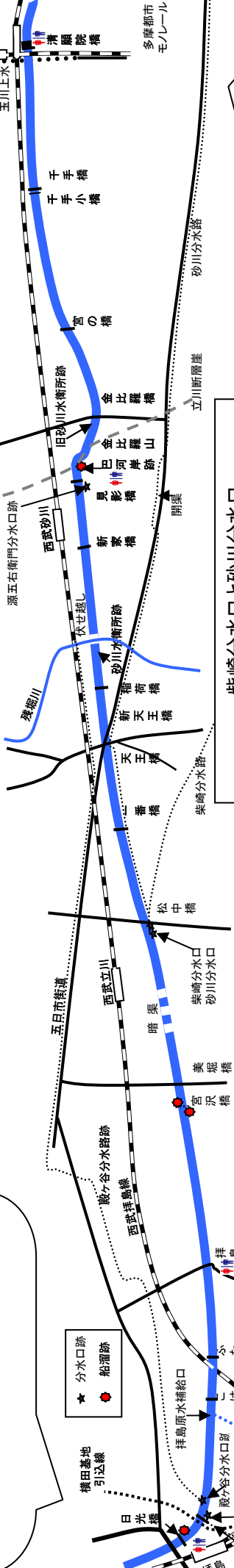
上水は西武立川駅南側付近で約350mの区間が暗渠になっている。上水右岸(南側)にある昭和飛行機は、戦前・戦中にかけて軍需工場として軍用飛行機を生産していた。ここに昭和14年(1939)ごろ長さ1200m、幅170mの滑走路があった。将来この滑走路の延長が予定されたために、上水に覆蓋工事が行われたとされる。30トンの荷重にも耐えられるよう頑丈に設計されている。終戦により滑走路の延長計画は立ち消えとなり上水の暗渠はそのまま残された。現在公園となっている。また、滑走路のあった工場の跡はゴルフ場などに変わっている。

旧砂川水衛所跡

金毘羅橋の上流側に、明治27年(1894)から昭和38年(1963)3月まで砂川水衛所が置かれていた。この時の作業橋が残る。残堀川改修により上流の残堀川交差点に移転し、さらに昭和55年(1980)に小平監視所に統合された。



玉川上水を掘った土で築かれたとも言われる金比羅山



柴崎分水口と砂川分水口

松中橋上流側の右岸橋脇に柴崎・砂川両分水の分水口があり、橋の下流側には堰がある。柴崎分水は元文2年(1737)の開設、利用したのは柴崎村、芋窪新田の2村であった。全長約1里半、水口寸法は150寸坪(1尺×1尺5寸)。現在も、昭和記念公園内を經由し青梅線を越え、JR中央線を金属製の掛樋で渡り流末は根川へと流れている。砂川分水は明暦3年(1657)開設の古い分水。利用したのは砂川村1村であった。全長約1里余、水口寸法は49寸坪(7寸四方)。開設当初分水口は天王橋下流にあった。江戸末期頃には下流の榎戸、平兵衛、中藤、鈴木、下小金井の各分水は砂川分水につなげられていた。更に、明治3年(1870)の分水改正で、分水口は現在地に移設され、国分寺、梶野、境の各分水ともつながれ、境分水までの右岸各分水の分水口は砂川分水口一つに統一された。(砂川分水は後に、深大寺村などに延伸されたので深大寺用水とも呼ばれている)

宮沢橋

上水記にも名前がある古い橋。現在は使われていない。明治期、玉川上水に通船が通ったとき、この橋の上流南側(揖島村)及び下流北側(宮沢新田)に船溜が設けられた。



日光橋

わが国に現存する最古の道路のレンガアーチ橋ともいわれている。明治24年(1891)5月から7月に、木橋からレンガ橋に架け替えられた。(ただし内部はコンクリートが詰められ、実質的にはコンクリート製アーチ橋) このレンガの多くは日野にあった日野煉瓦製造所で焼かれたものが使われた。昭和25年(1950)3月、橋の拡張のため両側にコンクリート製アーチ橋が掛けられたが、橋中央部のレンガ橋は残されている。橋名は、八王子千人同心が日光勤番のため往還として利用した日光街道にこの橋が架けられたことに由来する。

西武拝島線

昭和13年(1938)、大和村(現東大和市)に東京瓦斯電気工業が建設された。(昭和14年日立航空機立川発動機製造所と改称)第二次大戦中に軍の要請によりこの工場へ、西武川越線(現西武国分寺線)小川駅から専用線路が敷設された。終戦により工場は閉鎖となり、米軍大和基地として米軍に接収されていた。昭和25年(1950)5月、西武鉄道がこの専用線を使い、小川・玉川上水間に上水線を建設、営業運転を開始した。昭和43年(1968)5月、この上水線が拝島まで延長され、現在の西武拝島線となった。

多摩都市モノレール

平成10年(1998)11月上台北台・立川北間が開通し、平成12年1月上台北台・多摩センター間の全線16kmが開通した。多摩地区を南北に結んでいる。モノレールの開業に伴い、芋窪街道は玉川上水と西武線を地下で横断している。